

## トピックス

## 病院見学のサポートや相談セミナーなど随時受け付け中！

当協議会では、県外医学生の病院見学をサポートする「ずんばい回ろう!病院見学アシスト!」を通年で行っています!皆さまの希望をもとに、協議会事務局が見学希望先との日程調整等を行いますので、皆さんが病院一つ一つに申し込みを行う手間が無くなり、試験や実習に集中することが出来ます!交通費や宿泊費の補助もありますので、冬休みや春休みなどに是非ご利用ください!

また、皆さまの要望に可能な限りお応えして、指導医や研修医との交流の場をセッティングする「よろず相談セミナー」も随時実施しています!(初期臨床研修で初めて鹿児島に移り住んだ先輩研修医と話してみたい、〇〇科の指導医の先生から話を聞いてみたい、etc)

オンライン対応はもちろん、ご希望に応じて皆さんの住む街や大学を訪問する出前セミナー形式でも対応しています。お1人でも、ご友人と一緒にでも無料にて開催しておりますので、まずは「こんなセミナーって出来ますか?」くらいの気持ちでお気軽にお問い合わせください。

どちらのイベントも当協議会の公式Webサイトから随時受け付け中です!(ただし病院見学アシストは見学実施月に応じた申し込み締切あり)

皆さまの応募をお待ちしております!



## 協議会主催の令和7年度第1回オンライン合同説明会を開催しました!!

令和7年6月及び7月に、県内のすべての基幹型臨床研修病院が参加し、オンライン合同説明会(Webex)を開催しました。

県内外から数多くの医学生の方に参加していただき、コンシェルジュや病院毎の個別相談、指導医や研修医から病院・研修プログラムの内容、研修医生活について説明もあり、また、医学生の皆さんの知りたいことにもたくさん答えてもらいました。



## 鹿児島大学医学部で対面式の合同説明会を開催しました!

令和7年7月に鹿児島大学医学部鶴陵会館にて、県内すべての基幹型臨床研修病院(12病院)が一堂に会する臨床研修病院合同説明会を開催しました!多くの医学生の方に参加していただき、指導医・研修医・病院関係者から、病院・研修プログラム内容の説明や研修医生活について紹介してもらいました。

第2回は令和8年1月頃に実施予定です。協議会公式Webサイト等にてご案内しますので、今回は残念ながら予定が合わなかったり、遠方で参加できなかった医学生の皆さまも、研修医の生の声、鹿児島での研修の魅力を知る絶好の機会です!是非ご参加ください!



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局:鹿児島県 保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5928

<https://kagorinsyo.jp/>



鹿児島流

熱いハートの医師  
育てます

写真協力:鹿児島県PRポスター

## 私の研修医時代

国立病院機構 鹿児島医療センター 外科主任部長 **塗木 健介** さん

出身校 鹿児島県立川辺高校▶鹿児島大学

1988年3月に鹿児島大学を卒業しました。即入局の時代、その頃はまだ外科系の人気はあって、旧第一外科に入局しましたが、毎年10名程度の入局者でしたので、病棟は医師で賑やかでした。

時代は違います、朝早くから深夜まで、丁稚奉公です。早朝から採血、カンファレンス、手術日は夕方まで手術、術後は標本整理、術後管理、次の症例の術前準備と病院に泊まり込むことがほとんどで、気が付いたら屋外は冬になっていました。忙しい中にも教えられて大切にしていたことは、時間を見つけては患者さんと向き合うこと。最低、1日3回は患者さんのベッドサイドへ。診察、処置は勿論、患者さんの状態、表情、言葉から得られることはたくさんありました。ハード面が発達し、情報もあふれる時代ですが、やはり基本は患者さん中心です。人としての患者さんから多くのことを学び成長する、そういう研修期間であって欲しいと願います。



出身地 南九州市

# 指導医の思い出



出身地 熊本県

いちみ たかひろ  
**一美 貴弘さん**

出身校 八代高校▶鹿児島大学

勤務先▶今村総合病院 泌尿器科

卒業後ほどなくして泌尿器科関連病院の中で虎の穴とされていた病院に赴任した。私はそこで生涯の師と仰ぐお二人の先生と出会う。そこでの研修を終える時に経尿道的前立腺切除術ができるようになっていれば、卒業が認められる。しかし、私は血の舞う術野の中で勤をたよりに切除を繰り返すのが怖かった。研修の終わりが近づいた時に言われた言葉は「もう少し頑張ろうな」であった。出来ないことは自覚していたが、屈辱だった。それから十数年あまり後、また、お二人と別の病院で働く機会に恵まれた。私と同じところで働く後輩に代わり手術を終えた。「血の出ない手術だったね、勉強になった」と言っていた。十数年ぶりの卒業であった。その日の飲み会で当時の私の苦悩していた姿や先生方がなんとか私をできるようにしてやろうと苦慮された思い出が語られた。自分が見守られていたことに気づき深く感謝した。指導者となった今も恩師たちの背中を追っている。



出身地 霧島市

ほりきり やすし  
**堀切 靖さん**

出身校 ラ・サール高校▶熊本大学

勤務先▶県立始良病院

平成元年に大学を卒業しましたが、その当時、研修プログラムはなく、自分が進みたい精神科に直接入局しました。そのため、精神科以外については学生時代に学んだ知識しかありませんでした。それでも医師になってすぐから当直をすることもあり、身体的な治療が必要な場面では、「当直医マニュアル」みたいな本や「今日の治療指針」といった本を見ながら、何とかかんとか診ていたところでした。そのような状況が良くないということで研修医制度が始まったのだと思いますが、とても良かったことだと思います。知識はもちろん必要ですが、何でも経験が必要なのは言うまでもありません。

2年間ではありますが、医師としての基本的な経験ができるのは、その後の医師としての診療に大いに役立つことだと思いますので、その貴重な経験を大事にしてほしいと思います。



出身地 鹿屋市

ありき その  
**有木園 哲仁さん**

出身校 鹿屋高校▶自治医科大学

勤務先▶霧島市立医師会医療センター

2013年3月に卒業後、鹿屋医療センターや県立大島病院等で研修し、自治医科大学卒業医師として9年間の義務年限を終え、現在の職場で勤務しています。研修医の頃は比較的同期が少ない環境だったこともあり、貴重な症例や手技がある際はローテーションしていない科であっても上級医の先生から声をかけてもらい指導いただきました。その後は離島・僻地勤務がほとんどで、ある程度のことは自身で解決していかなければならない日々が続く中、指導が受けられる、すぐ相談ができる環境の素晴らしさを改めて実感する日々でした。

当院含め今の研修医の先生たちをみると、自分の研修医の頃と比べて本当に優秀で積極的だなと感心します。今の気持ちを忘れずに今後も研鑽を積んで下さい。そのために力になれることは微力ではありますが全力でサポートします！（時代錯誤かもしれませんが特に飲み会では本領が発揮できると思います、メンバー選考の際はぜひご検討下さい）



出身地 徳島県

おおむら たけし  
**大村 健史さん**

出身校 徳島文理高校▶徳島大学

勤務先▶米盛病院

私は新臨床研修制度に移行する3年ほど前に研修を開始しました。当時は直接、大学の医局に入局する人が大半でしたが、東京の研修病院で初期及び後期研修を修めました。

良かった点は、さまざまなバックグラウンドを持つ指導医に出会えたことです。外科研修では出身大学により、たとえば腸管吻合の方法においても全然違っており、それぞれの良いところを取り入れて自分の型を形成することができました。

自分自身がそうでしたが、研修医の皆さんにはこんな医師になりたい、と思えるような指導医に出逢い、その指導に少しでも近づけるよう努力を続けることが成長につながります。そのような目で、身の回り、あるいはセミナーなどに参加した際、ちょっと勇気を出して声をかけてみましょう。人生が変わるかもしれません。

# 研修医の声



出身地 熊本県

ひがし しゅんたろう  
**東 駿大郎さん**

出身校 熊本県立熊本高等学校▶鹿児島大学

研修先▶公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院

初期研修医として働き始めて約1年半が経過し、振り返ると様々な経験をしてきました。救急の現場では、自ら診察し検査・治療方針を立て、指導医からフィードバックをもらうことで着実に力をつけられました。院内で様々な診療科で研修するにつれて、様々な先生方と関わる機会が増え、自分が回っている診療科に関わらず質問に対応していただき、手術や検査へも積極的に参加させてもらいました。研修内容だけでなく研修医の同期・先輩後輩にも恵まれ、学年を問わず互いに協力しながら業務に励むことができました。

初期研修期間は今後も医師として働いていく上での重要な土台になると考えています。私はこの研修期間で医学的知識だけでなく、患者さんやその家族、一緒に働くスタッフの方々などとの関わり方も現場を通して学ぶことができました。

残りの研修も様々なことを最大限に吸収し、今後の医療に活かしていければと思います。



出身地 鹿児島市

しま ゆうき  
**島 祐貴さん**

出身校 ラ・サール高校▶鹿児島大学

研修先▶大隅鹿屋病院

晴れて研修医になり半年が経過しました。医師としてスタートラインを切った初週、担当患者が熱を出しました。解熱剤の処方の仕方が分からず、「発熱さえ自分一人で対処できないのか」と落胆し、指導医に泣きついた思い出があります。その頃が懐かしいと思えるくらい、密度の濃い半年間だったと思います。

研修医になって驚いたのは、やるべきことの多さです。病棟管理に、外来に、手術や処置に、院内の勉強会に、委員会出席に、突然来る緊急コール、家に帰っても発表資料の作成に、e-ラーニングと、自分があと2人は欲しいくらいです。

指導医は自分の10倍の仕事量の中、自分たちの指導までしてくださっている事を考えると、少しでも自分で出来ることを増やしていき、上司の仕事を減らさねばと日々精進するばかりです。

人生で最初で最後の研修医2年間、1日も無駄にはできないと走り抜けるつもりです。



出身地 宮崎県

ひだか けんたろう  
**日高 憲太郎さん**

出身校 宮崎西高校▶宮崎大学

研修先▶鹿児島医療センター

新しい環境に飛び込もうと鹿児島での研修を始めてから1年半が経ちました。慣れない環境や出来ないこと、自分では判断をつけられないことの多さに戸惑うこともありましたが、各診療科で学び少しずつ出来ることが増えていると思います。

また、研修も後半戦に入り、鹿児島医療センター以外の病院での研修も多くなりました。行く先々は全て初めての場所ですが、指導医の先生をはじめ多くの方にお世話になり、研修先としてこの地を選んだことは間違いはなかったと思います。

今は3年目以降も鹿児島に残ることを決め、楽しみと不安とが交錯しながらの毎日です。今後に向けて自分に足りないものを見つめ、残る半年の研修も充実したものにしていこうと思います。



出身地 日置市

ひがし りゅうき  
**東 龍紀さん**

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

研修先▶南風病院

研修医となって1年半が経過し、いよいよ研修生活も終盤に差し掛かろうとしています。振り返れば、日々が学びと挑戦の連続でした。初めは分からないことばかりで不安も大きかったものの、上級医や先輩研修医、そして多くのスタッフの方々に支えられ、少しずつ自信を持って診療に臨めるようになりました。失敗や反省も少なくありませんでしたが、その一つ一つが成長の糧となったと実感しています。

残り半年、守られた環境で研修できる時間を大切にし、悔いの残らないよう学びを深めていきたいと思えます。そして専攻医としての第一歩を確実に踏み出せるよう準備を進め、自らの理想とする医師像に近づけるよう日々精進してまいります。